

# 5.

## 若手研究者の育成

- 1) AIT ワークショップ
- 2) 大学院における次世代研究者育成
- 3) 専任・特任教員担当講義

## 1) AIT ワークショップ

### ジェンダー研究所が運営主体を務める国際研究交流プロジェクト

#### タイのアジア工科大学院大学（AIT）とジェンダー研究所による若手研究者国際交流プログラム

AIT ワークショップは、ジェンダー研究所と、タイのアジア工科大学院大学（Asian Institute of Technology (AIT)）とにより実施されている、国際研究交流プログラムである。

2001 年に、ジェンダー研究センター（現ジェンダー研究所）所属教員と、AIT「ジェンダーと開発」専攻の日下部京子教授らの尽力によって始められ、2004 年には、本学と AIT との間で大学間学術交流協定が結ばれた。以降、協定に基づき、日本ではジェンダー研究所が、タイでは AIT・環境資源開発研究科が運営主体となり、AIT で実施されるワークショップへの本学院生派遣と、AIT 大学院生の日本国内での研修受入による、国際研究交流事業をほぼ毎年実施している。お茶大ではもっとも歴史が長い国際研究交流プログラムである。

2009 年度からは、AIT ワークショップ・プログラムは、ジェンダー研究センターが従来提供してきた大学院博士前期課程科目「国際社会ジェンダー論演習」として単位認定が始まった。2013 年度はサマープログラムを活用して AIT 院生の日本国内研修を実施し、2014 年度からは大学院博士前期課程科目「フィールドワーク方法論」を国内事前研修として取り入れた。

#### AIT ワークショップ過年度実績

| 実施年度      | 研修テーマ                                                                       |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 2001      | Gender and Development                                                      |
| 2002      | Gender, Work and Globalization                                              |
| 2003      | Women, Globalization and Home-based Work                                    |
| 2004      | Female Migrant Workers' Rights in Thailand                                  |
| 2005      | Gender and Development in Thailand: Labor rights and violence against women |
| 2006      | 〔実施せず〕                                                                      |
| 2007      | Gender, Rights and Empowerment                                              |
| 2008      | Thailand-Japan Interactive Research Actions by Using Gender Perspectives    |
| 2009      | Gender and Policy: Through Thailand-Japan Interactive Analysis              |
| 2010      | Gender and Social Change: Comparative Analysis of Thailand and Japan        |
| 2011      | Gender and Disaster 〔特別プログラム：本学でのシンポジウム開催〕                                  |
| 2012      | Sexuality                                                                   |
| 2013      | Global Justice, Women's Health and Prostitution                             |
| 2014      | 1) Sexuality, 2) Gender and Poverty, 3) Education and Empowerment           |
| 2015      | Labor, Sexuality and Empowerment                                            |
| 2016      | Labor and Association from Gender Perspective                               |
| 2017      | Sexual minority and migrant workers from gender perspectives                |
| 2018      | Power and Sexuality from Gender perspectives                                |
| 2019      | Gender and Empowerment in Urban Space                                       |
| 2020、2021 | 〔院生派遣は見送り〕                                                                  |
| 2022      | Education from intersectional Perspective                                   |

## 大学院講義「国際社会ジェンダー論」での学習とグローバルなフィールドでの実践・交流

本ワークショップの日本からの参加者は、春学期に大学院科目「フィールドワーク方法論」を履修し、開発とジェンダーにかかわるグローバルな課題群の分析方法や視座、海外におけるフィールド調査方法を学ぶ。その後にアジア諸国の将来を担う多彩な人材が集う AIT での研修に参加し、フィールドワークに基づく研究の基礎を実践的に学習する。また各国の院生たちとワークショップで研究交流することで、彼らの熱意ある議論スタイルや問題関心の多様さから研究者としての刺激を得る。帰国してからはジェンダー研究所所属教員が担当する「国際社会ジェンダー論」（本報告書 66 頁参照）にて、タイで得た知見を共有し、国際社会におけるジェンダーの問題の理論的検討を通じて、さらに理解を深める。また参加者は毎年、報告書をまとめている。

ジェンダー研究所は、このような大学院生の国際研究交流プログラムを提供し、大学院生の教育キャリアキュラムを補強することで、次世代のジェンダー研究者、あるいは、NGO や国際機関で国際協力の仕事につく人材の養成に持続的に取り組んでいる。

### ■2022 年度 AIT ワークショップについて

新型コロナウイルス拡大のために 2020 年度、2021 年度の院生相互派遣の実施は見送られたが、2022 年度は関係者の尽力によって再開でき、参加した院生に有意義なプログラムを提供できた。2019 年度と同様に、参加者はまず国内事前研修に相当する「フィールドワーク方法論」の授業をとり、AIT ワークショップ派遣に備えて学ぶこととなる。今年度は日本への入国緩和の時期が 7 月だったこともあり、例年、AIT の院生を受け入れてからお茶大院生が派遣されるところを順序が逆となり、お茶大院生の AIT への派遣が先となった。

帰国後に参加者は「国際社会ジェンダー論」で、タイでのフィールドワークや AIT での学びを言語化し、報告会と報告書作成に向けて共同作業で準備を進めていった。これは派遣されたという経験のみで終わらせることなく、その経験を咀嚼し、グローバルな社会状況の中に位置づけ直し、自身の見聞きした情報を体系づけていく作業を通してより理解と思索を深める機会を得るためである。

タイからの来日研修では、本学歴史資料館や IGS 所属教員の協力を得て、また学外の関連団体や研究者からも多くの協力も得て、日本におけるセクシュアル・マイノリティの政策や実態、またそれと交差する形での移民や受刑者たちの状況を具体的に学ぶプログラムを組み、インタビューやフィールドワークを実践する機会を設けた。日本からの参加者はすべての日程でサポートに入り、臨機応変に通訳や説明の補足を適宜行なったが、これもまたこのプログラムならではの実践の一つである。日本とタイからの参加者によるそれぞれの報告会では、充実したフィールドワークの成果が報告され、質疑応答も活発に行われた。

「ジェンダーと開発（Gender and Development: GAD）」にかかわる課題群の分析方法や視座、また海外におけるフィールドワークの基礎を学ぶことが目的の本プログラムによって、参加者は国際協力や開発援助、市民運動に直に触れ、フェミニスト視点から議論する機会を得ることができたといえるだろう。



「AIT ワークショップ」で来日したタイのアジア工科大学院大学（AIT）の院生による研究報告会

## 2) 大学院（人間文化創成科学研究科）における次世代研究者育成

ジェンダー研究所はジェンダーの視点から学際的・国際的な研究を推進する次世代の研究者育成も行っている。IGS 所属教員の指導のもと、2022 年度は以下の院生が博士前期課程を修了した。

### 博士前期課程（ジェンダー社会科学専攻）修了者

【氏名】伊奈 留偉

【指導教員】申 琪榮（IGS 教授）

【修論タイトル】候補者男女均等法の推進理論としての代表制におけるパリティ概念の批判的検討

【要旨】

2018 年「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」（以下候補者男女均等法）が成立したが、候補者擁立に際し男女の数を均等にするには“努力義務”とされたため、改正が目指されている。本稿の目的は、候補者男女均等法の改正を念頭に、その理論的方向性を検討することである。日本において「候補者を男女均等にする」とはどのような包摂と排除を意味するのかという観点から、「男女」という枠組みを批判的に考察する。男性のみで構成された政治的共同体に女性が参入し、「男女が平等となった」という市民権の物語の続編としての候補者男女均等法の物語において忘却されるものの存在を、既存の権力が再生産される構造から明らかにする。

【氏名】花岡 奈央

【指導教員】申 琪榮（IGS 教授）

【副査】大橋 史恵（IGS 准教授）

【修論タイトル】日本のフェミニズム文脈で語られる Twitter 上でのトランスジェンダー差別・排除の言説分析——ハッシュタグ「#ファイヤーデモ」に着目して——

【要旨】

本論文は日本におけるインターネット上の「生物学的な女性の権利を守るため」の活動の中の「トランス差別的・排除的な枠組み」を明らかにし、その「枠組み」が維持できる背景について考察を試みる。「トランス差別的・排除的」とであると指摘される「生物学的な女性の権利を守るため」の活動に焦点を当てることで、現在のフェミニズムが取りこぼしている課題や周縁化されている問題を再確認し、今後のフェミニズムの戦略を考える上で重要な手がかりとしたい。「生物学的な女性の権利を守るため」の活動の中で使用されるハッシュタグ「#ファイヤーデモ」とともに投稿されているツイートとアカウント情報の統計的な整理、計量分析ソフト KH coder を用いた量的調査及びツイートの言説分析を行った。

【氏名】河原 恵美

【指導教員】大橋 史恵（IGS 准教授）

【修論タイトル】『はたらく細胞』に見る医療マンガ表象とジェンダー——擬人化と戦いのメタファに着目して——

【要旨】

本研究では、マンガ『はたらく細胞』が擬人化や戦いのメタファを使用した表象を取り入れていることの意味を探る。特に戦いのメタファに重点を置いて分析を行う。戦いのメタファはマンガに限らず、Covid-19 についての比喩や医療書における医学的な説明の比喩にも使われる。それはそのようなメタファが、大衆に受け入れられやすい性質をもっているために他ならないが、そこにさまざまな問題がともなっていることについては批判的に考えることが必要である。本研究は『はたらく細胞』の分析を通じてそうした問題を明らかにしていくことによって、「分かりやすさ」と「面白さ」のために戦いのメタファを安易に使うことの危険性を示唆する。

【氏名】YU LE

【指導教員】大橋 史恵 (IGS 准教授)

【修論タイトル】中国内陸部農村出身の大学進学者のライフコースとジェンダー——「民工潮」子ども世代の学業達成と進路選択をめぐって——

【要旨】

本研究は、1990 年代以降の中国内陸部農村に生まれた女性と男性の大学進学とその後の進路選択の経験に着目し、農村―都市間の格差やそれに関わるさまざまな政策が、農村の若者たちのライフコースにどのような影響を及ぼしたのかを、ジェンダーの視点から明らかにするものである。この世代の農村の若者たちは、1990 年代以降の「民工潮」（出稼ぎブーム）において都市に出稼ぎに行った世代の子どもたちであり、「流動児童」（親の出稼ぎに帯同される子ども）や「留守児童」（親の出稼ぎで農村に残される子ども）として過ごした者が多いということに留意しながら若者たちへのライフヒストリーインタビューを行い、彼女ら・彼らの高校、大学への進学とその後のライフコースを分析した。

【氏名】LI XIAOXUE

【指導教員】大橋 史恵 (IGS 准教授)

【副査】申 琪榮 (IGS 教授)

【修論タイトル】中国における地方国家公務員人事のジェンダー・ポリティクス——内モンゴル自治区における公務員の採用と昇進を事例に——

【要旨】

本研究は、近年の中国の地方国家公務員の人事についてジェンダーの視点から実証的分析をおこない、導き出される問題点について批判的に考察するものである。中国における公務員の採用についてのこれまでの研究調査は、各地域の文化・政治・経済的要因への考慮が欠如している。特に少数民族自治区の状況については、少数民族優遇措置が女性公務員の採用および昇進割合の推移に影響をおよぼす可能性など、ジェンダーの問題とエスニシティの問題が重なるところに発生しうることについて検討する必要があると思われる。本研究では少数民族自治区である内モンゴル自治区を対象に、地方国家公務員の採用と昇進にどのようなポリティクスがはたらいしているのかを、ジェンダーとエスニシティの交差にも目を向けながら論じていく。

## ● IGS 所属教員が副査を務めた 2022 年度博士前期課程修了者と論文タイトル

### 博士前期課程（ジェンダー社会科学専攻）修了者

【氏名】小嶋 里菜

【副査】大橋 史恵 (IGS 准教授)

【修論タイトル】女性雑誌にみる PMS をめぐる実践の要請とその女性性規範化に関する検討

## ● IGS 所属教員が副査を務めた 2022 年度博士後期課程修了者と論文タイトル

### 博士後期課程（ジェンダー学際研究専攻）学位取得者

【氏名】Baraniak-Hirata Zuzanna Maria

【副査】申 琪榮 (IGS 教授)、大橋 史恵 (IGS 准教授)

【博論タイトル】Exploring the Takarazuka world: An ethnographic study of Takarazuka Revue's marketing strategies, urban space, and fan culture development

### 3) 2022 年度 IGS 専任・特任教員担当講義

#### 《人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー学際研究専攻》

##### 申琪榮（教授）

比較政治論（前期）

比較政治論演習（後期）

ジェンダー学際研究報告（基礎）（前期不定期）

ジェンダー学際研究報告（発展）（後期不定期）

ジェンダー学際研究論文指導（通年不定期）

##### 大橋史恵（准教授）

ジェンダー学際研究報告（基礎）（通年不定期）

ジェンダー学際研究報告（発展）（通年不定期）

ジェンダー政治経済学（前期）

ジェンダー政治経済学演習（後期）

#### 《人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻》

##### 申琪榮（教授）

フェミニズム理論の争点（前期）

フェミニズム理論の争点・演習（後期）

国際社会ジェンダー論（後期不定期）

国際社会ジェンダー論演習（後期）

##### 大橋史恵（准教授）

ジェンダー社会経済学（前期）

ジェンダー社会経済学演習（後期）

##### 嶽本新奈（特任講師）

国際社会ジェンダー論（後期不定期）

※（本報告書 62～63 頁「AIT ワークショップ」参照）

#### 《学部》

##### 戸谷陽子（教授）

ジェンダー 3 文化メディアとジェンダー（後期）

##### 申琪榮（教授）

比較ジェンダー論（後期）

##### 大橋史恵（准教授）

アジア社会とジェンダー I（後期）

グローバル文化学実習 II（通年不定期）

グローバル文化学総論（前期）

ジェンダー 2 グローバル経済とジェンダー（前期）

文化変動論 I（後期）

文化変動論 II（前期）